

打

三年 画数 5
 筆順 一 才 打
 オンダ
 う 二つ

成り立ち



「くぎ」の形をあらわした「丁」に、手の形をあらわした「扌」をくわえて、「くぎ」をうつことをあらわした字です。

「くぎ」にかぎらず、「うつ」ことをあらわすのにつかいます。「たたく」といういみです。

「最も古い呉音は、チヨウウで、次の漢音は、テイである。

これらの音を使った言葉は、今はほとんどない。強いていえば、「打擲」くらいである。ダの音は、最も新しい唐音である。鎌倉時代以降、仏教と共に入って来たものである。現代音もダ、もしくはタである。」

使い方

▽しゆくてきの打倒がはたせるかどうかは、打撃がてきのピッチャーを打ちくずせるかどうかにかかっています。

熟語例

▽げんじょうを打破したいという気もちはあるのですが、打開できるという自信はありません。

▽打倒(打ち倒すこと。あい手のチームをやぶること。)

▽打撃(撃もつこと。野球で攻撃がわが球を打つことをいいます。もと「いくさで攻撃してあい手にそんがいをあたえる」ことをあらわしたことです。)

▽打破(打ち破ること。「さまざまになるものをとりのぞく」ことや「わるいならわしをあらためる」ことにもいいます。)

▽打開(こんななじょうきようを打ち破り、切り開いてすむこと。)

▽打算(「算盤「そろばん」をはじく」ことで「計算をする」といういみのことばです。「そんたくの計算をして、よいこともそんなことはせず、とくになることはわるいこともすることをいいます。)

使い方

▽一对の手袋の片方を、どこかに落としてしまいました。

▽男の子対女の子で、バドミントンの試合をしました。

熟語例

▽一对(二つで一組になっているもののことをいいます。「一对のおびなとめびな」などというふうにつかいます。)

▽対立(二つのものが、張り合っ立って立つこと。「意見が対立して、とうとう会議はまとまらなかった」などというふうにつかいます。)

▽対抗(対立して、競いあうこと。「中田くんに対抗して、山下くんが委員長に立候補した」などというふうにつかいます。)

▽反対(あることと対立する立場にあること。また、ある意見にさからうことをも言います。「川田くんの意見には、ぼくは反対だ」などというふうにつかいます。)

▽敵対(敵として対抗すること。「あの人は、どうしてか、ことごとくに、わたしに敵対するのでこまる」などというふうにつかいます。)

対

三年 画数 7
 筆順 一 ナ 文 対
 オン
 タイ ツイ

成り立ち



手首のみやくどころをしめし、ものごとの「きまり」のいみをあらわした「寸(寺2年182)」と、線をこうささせたもようの形で、文字や文のいみの「文」とを組み合わせた字で、「文のきまり」といういみの字です。

文を作るばあい、「花がさき、鳥がなく」とか「山は高く、海は広い」というように、つりあいのとれた二つの文句をならべる「きまり」がむかしからありました。これを「対句」といいます。それで、対は「二つ一組」「二つがむかいあう」といういみにつかわれます。

「本字は、「對」で、楽器の鐘を掛ける板の形を表した「莖」と、手の意味の「寸」との会意字である。二つ一組になって向かい合って設けられるため、「二つ一組」「向かい合う」の意味を表す。」